

辺縁系脳炎後遺症—アンケート調査の結果より

村上 秀友¹⁾ 河村 満¹⁾ 庄司 紘史²⁾

1) 昭和大学神経内科 2) 国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部

単純ヘルペス脳炎などの辺縁系脳炎では、病態の解明や治療法の進歩により生存例が増加したが、記憶障害、人格変化、てんかん等を後遺する患者が多いことが知られている。今回、患者さんや家族が感じている後遺症を把握するために辺縁系脳炎の患者さんとその家族を対象に自覚的な後遺症の症状についてアンケート調査を行い、SAKURA 京都集会において、今回のアンケート調査の結果を報告した。

表1 対象患者

| | | |
|---|-------------|------------------|
| } | 単純ヘルペス脳炎 | 30例 (男19 女11) |
| | 平均発症時年齢 | 48.6歳 発症後8か月～20年 |
| } | 非ヘルペス性辺縁系脳炎 | 27例 (男11 女16) |
| | 平均発症時年齢 | 36.7歳 発症3か月～11年 |

今回、表1に示す通りアンケートは57例回収された。ヘルペス脳炎の患者さん(30例)と非ヘルペス性辺縁系脳炎の患者さん(27例)の自覚的な後遺症の頻度を表2に示す。

表2 各後遺症自覚の頻度

| | 単純ヘルペス脳炎群 30例 | 非ヘルペス性辺縁系脳炎群 27例 |
|----------|------------------|---------------------|
| 退院後に職業変化 | 13例 (43.3%) | 12例 (44.4%) |
| 人格変化 | 25例 (83.3%) | 21例 (77.8%) |
| 記憶障害 | 23例 (76.7%) | 21例 (77.8%) |
| 見当識障害 | 10例 (33.3%) | 11例 (40.7%) |
| 運動障害 | 13例 (43.3%) | 9例 (33.3%) |
| てんかん | 6例 (20.0%) | 7例 (25.9%) |
| 嗅覚障害 | 9例 (30.0%) | 4例 (14.8%) |
| 味覚障害 | 11例 (36.7%) | 5例 (18.5%) |
| 排尿障害 | 5例 (16.7%) | 10例 (37.0%) |

発症後職業が変化(退職を含む)した患者さんの割合は両群で同等であった。性格・行動の変化、記憶障害、見当識障害、運動障害、てんかんの各後遺症を自覚する患者さんの割合は、両群でほぼ同等であった。嗅覚、味覚、排尿障害を後遺した自覚の頻度は両群で約 2 倍の差があった。これらは、現在のところ未解明であるが、辺縁系脳炎の原因疾患ごとに病態が異なることによる可能性がある。

生活に大きな影響を与えるこれらの辺縁系脳炎後遺症の詳細が将来解明されていくと思われる。